

母体の出身地と分娩肛門括約筋損傷との関連

Obstetric anal sphincter injury by maternal origin and length of residence : a nationwide cohort study

Sørbye IK et al

BJOG 129:423-431, 2022

目的 母体の出生地域およびノルウェー居住期間と分娩時肛門括約筋損傷 (obstetric anal sphincter injury ; OASI) との関連を明らかにすること。

方法 2008~2017年にノルウェーで単胎の頭位経陰分娩を行った初産女性 188,658人を対象に、多変量ロジスティック回帰分析でOASIと母体の出生地域との関連を検討した。居住期間やパートナーの出身地を層別化して解析した。

結果 OASIは6,373人(全体の3.4%)で起こった。ノルウェー出身女性と比較して、南アジア出身の女性で最もOASIが発症率が高かった(6.2%, オッズ比2.24, 95%信頼区間1.87-2.69)。次いで東南アジアと東アジア、太平洋地域出身の女性(5.7%, オッズ比1.85, 95%信頼区間1.37-1.83)、サハラ以南のアフリカ出身の女性(5.2%, オッズ比1.85, 95%信頼区間1.55-2.20)の順に発症率が高かった。同地域出身の女性で比較する

と、ノルウェー居住期間が4年以内と短い女性でOASI発症率が高かった。ほとんどの出生地域において、パートナーがノルウェー出身である女性のOASI発症率が最も低かった。

結論 アジア地域とサハラ以南のアフリカ出身の初産女性ではノルウェー出身女性に比べて2倍近くのOASIリスクを有していた。ノルウェー居住期間が短い移民やノルウェー以外の出身のパートナーを有する女性もOASIリスクが高く、このことはOASIリスクが社会文化的因子に基づくものであることを示唆している。OASIリスクのあるノルウェー滞在期間の短い移民女性の分娩時にはOASIリスクを低減するために特に注意することが必要である。

(東北大学産婦人科 石橋ますみ 抄)

不完全妊娠と卵巣癌発症リスクとの関連

Expanding our understanding of ovarian cancer risk : the role of incomplete pregnancies

Lee AW et al

J Natl Cancer Inst 113:301-308, 2021

背景 妊娠は卵巣癌リスクの低減と関連しているが、不完全な妊娠と卵巣癌リスクとの関連はこれまで明らかにされていない。Ovarian Cancer Association Consortium (OCAC)による15の症例対象研究で不完全妊娠と卵巣癌発症との関連を検討した。また、これまで大規模な症例数では検討されていなかった組織型特異的な関連性についても検討した。

方法 Complete pregnancyを6カ月以上の妊娠期間であるものと定義し、Incomplete pregnancy(不完全妊娠)を6カ月未満の妊娠期間のものと定義したが、不完全妊娠の群には6カ月未満で生児を得た症例も含まれた。10,470例の浸潤卵巣癌症例と16,942例のコントロールで研究が行われた。不完全妊娠と卵巣癌発症との関連性を示すオッズ比と95%信頼区間をロジスティッ

ク回帰分析で求めた。人種、民族、年齢、教育水準、妊娠回数、経口避妊薬使用、授乳の有無といった因子が調整された。

結果 一度でも不完全妊娠を経験した女性では卵巣癌発症リスクが16%低かった(オッズ比0.84, 95%信頼区間0.79-0.89)。不完全妊娠の回数が増えるほど卵巣癌発症リスクが低下する傾向がみられた。組織型では明細胞癌で特に不完全妊娠の回数と卵巣癌発症リスクに逆相関が認められた。

結論 組織型を問わず不完全妊娠も含めて、妊娠は卵巣癌発症リスクを低減する。今後はその機序の解明が課題となる。

(東北大学産婦人科 石橋ますみ 抄)